

## 展示解説シート

平成11年度 特別展「江戸時代の旅と絵馬」

# 西国三十三箇所観音巡礼

西国三十三箇所観音巡礼は、四国八十八箇所遍路とならぶ代表的な巡礼で、京都を中心に三十三箇所ある観音の霊地を巡拝することです。

三十三という数字は「観音菩薩は三十三の姿に化身して、私たちを助けてくれる」というご利益にちなんだものです。

### <西国三十三箇所の歴史>

奈良時代、養老年中、大和国（現奈良県）長谷寺の徳道上人が亡くなり、閻魔大王に会い、「三十三箇所の霊場を巡礼すれば、滅罪のご利益がある。巡礼を世に広めなさい」といわれ石札を渡されて生き返り、摂津国（現兵庫県）中山寺に納めました。その後、65代花山天皇が夢を見たとき、石札の存在を告げられ、河内国（現京都府）仏眼寺の仏眼上人を導師として西国三十三箇所を復興したと伝えられています。

その後、山伏や遊行聖などを中心に西国巡礼は行われ、室町時代末期になると庶民も参加するようになり、江戸時代になるとますます盛んになりました。

関東地方からの旅のモデルコースとしては伊勢神宮から西国三十三箇所を巡り、大坂、奈良、京都を見物、四国の金刀比羅山まで足を伸ばし、帰途に善光寺に参るというもので、清治郎さんもこのコースをたどっています。

### <西国三十三箇所>

- |      |      |                               |              |
|------|------|-------------------------------|--------------|
| 第1番  | 青岸渡寺 | 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町                 |              |
|      |      | 那智山青岸渡寺（なちさんせいがんとじ）           | 本尊 如意輪観音     |
| 第2番  | 紀三井寺 | 和歌山県和歌山市                      |              |
|      |      | 紀三井山金剛宝寺護国院（きみいさんこんごうほうじこくいん） | 本尊 十一面観音     |
| 第3番  | 粉河寺  | 和歌山県那賀郡粉河町                    |              |
|      |      | 風猛山粉河寺（ふうもうざんこかわでら）           | 本尊 千手千眼観音    |
| 第4番  | 槇尾寺  | 大阪府和泉市                        |              |
|      |      | 槇尾山施福寺（まきのおさんせふくじ）            | 本尊 十一面千手千眼観音 |
| 第5番  | 葛井寺  | 大阪府藤井寺市                       |              |
|      |      | 紫雲山葛井寺（しうんざんふじいでら）            | 本尊 十一面千手千眼観音 |
| 第6番  | 壺阪寺  | 奈良県高市郡高取町                     |              |
|      |      | 壺阪山南法華寺（つばさかさんみなみほっけじ）        | 本尊 十一面千手観音   |
| 第7番  | 岡寺   | 奈良県高市郡明日香村                    |              |
|      |      | 東光山龍蓋寺（とうこうざんりゅうがいじ）          | 本尊 如意輪観音     |
| 第8番  | 長谷寺  | 奈良県桜井市                        |              |
|      |      | 豊山長谷寺（ぶざんはせでら）                | 本尊 十一面観音     |
| 第9番  | 南円堂  | 奈良県奈良市                        |              |
|      |      | 興福寺南円堂（こうふくじなんえんどう）           | 本尊 不空羅索観音    |
| 第10番 | 三室戸寺 | 京都府宇治市                        |              |
|      |      | 明星山三室戸寺（みょうじょうざんみむろとじ）        | 本尊 千手観音      |
| 第11番 | 上醍醐  | 京都府京都市伏見区                     |              |

	深雪山上醍醐寺 (しんせつさんかみだいごじ)	本尊	准胝観音
第 12 番	岩間寺 滋賀県大津市 岩間山正法寺 (いわましんしょうほうじ)	本尊	千手観音
第 13 番	石山寺 滋賀県大津市 石光山石山寺 (せっこうざんいしやまでら)	本尊	如意輪観音
第 14 番	三井寺 滋賀県大津市 長等山園城寺 (ながらさんおんじょうじ)	本尊	如意輪観音
第 15 番	今熊野 京都府京都市東山区 新那智山観音寺 (しんなちさんかんのんじ)	本尊	十一面観音
第 16 番	清水寺 京都府京都市東山区 音羽山清水寺 (おとわさんきよみずでら)	本尊	十一面千手千眼観音
第 17 番	六波羅蜜寺 京都府京都市東山区 補陀洛山六波羅蜜寺 (ふだらくさんろくはらみつじ)	本尊	十一面観音
第 18 番	六角堂 京都府京都市中京区 紫雲山頂法寺 (しうんざんちやうほうじ)	本尊	如意輪観音
第 19 番	革堂 (こうどう) 京都府京都市中京区 霊・山行願寺 (れいゆうざんぎやうがんじ)	本尊	千手観音
第 20 番	善峰寺 京都府京都市西京区 西山善峰寺 (にしやまよしみねでら)	本尊	千手観音
第 21 番	穴太寺 京都府亀岡市 菩提山穴太寺 (ぼだいさんあなおじ)	本尊	聖観音
第 22 番	総持寺 大阪府茨木市 補陀洛山総持寺 (ふだらくさんそうじじ)	本尊	千手観音
第 23 番	勝尾寺 大阪府箕面市 応頂山勝尾寺 (おうちやうざんかつおうじ)	本尊	十一面千手観音
第 24 番	中山寺 兵庫県宝塚市 紫雲山中山寺 (しうんざんなかやまでら)	本尊	十一面観音
第 25 番	清水寺 兵庫県加東郡社町 御嶽山清水寺 (みたけさんきよみずでら)	本尊	十一面千手観音
第 26 番	一乗寺 兵庫県加西市 法華山一乗寺 (ほっけさんいちじやうじ)	本尊	聖観音
第 27 番	円教寺 兵庫県姫路市 書写山円教寺 (しよしゃざんえんきやうじ)	本尊	六臂如意輪観音
第 28 番	成相寺 京都府宮津市 成相山成相寺 (なりあいざんなりあいじ)	本尊	聖観音
第 29 番	松尾寺 京都府舞鶴市 青葉山松尾寺 (あおばさんまつのおでら、せいようざんまつのおじ)	本尊	馬頭観音
第 30 番	竹生島 滋賀県東浅井郡びわ町 厳金山宝厳寺 (がんこんざんほうごんじ)	本尊	千手千眼観音
第 31 番	長命寺 滋賀県近江八幡市 姨綺耶山長命寺 (いきやさんちやうめいじ)	本尊	千手・十一面・聖観音
第 32 番	観音正寺 滋賀県蒲生郡安土町 繖山観音正寺 (きぬがさやまかんのんしょうじ)	本尊	千手千眼観音
第 33 番	華厳寺 岐阜県揖斐郡谷汲村 谷汲山華厳寺 (たにくみさんげごんじ)	本尊	十一面観音

## 展示解説シート2

平成11年度 特別展「江戸時代の旅と絵馬」

# 清次郎さんが歩いた距離は？

江戸時代の旅は、現代のように電車や飛行機がなかったため、すべて歩いて行きました。この旅日記にはすべての距離数が書いてあるわけではありませんが、一部に記載されています。ここでは、この旅日記に記載されている距離数から清次郎さんの歩いた距離を探ってみましょう。

- ◆1月26日 品川～川崎（4里18町）
- ◆1月27日 川崎～神奈川～程ヶ谷～戸塚（6里）
- ◆1月28日 戸塚～藤沢～平塚～大磯～小田原（10里2町）
- ◆1月29日 箱根～三島（3里28町）
- ◆閏1月1日 三島～沼津～原～吉原～蒲原～油井（10里）
- ◆閏1月2日 由井～興津～江尻～府中（6里6町）
- ◆閏1月4日 府中～丸子～岡部～藤枝～嶋田～金谷～日坂（9里33町）
- ◆閏1月5日 日坂～掛川（1里29町）
- ◆閏1月7日 石打村～熊村～神澤村～大平村～単山村～大野村（7里18町）
- ◆閏1月8日 御油～赤坂～藤川～岡崎（4里7町）
- ◆閏1月9日 岡崎～池鯉鮒～鳴見～宮（7里24町）
- ◆閏1月10日 宮～津嶋～桑名（5里18町）
- ◆閏1月11日 桑名～四日市～白子～上野～津～雲津～松坂～櫛田（16里8町）
- ◆閏1月12日 櫛田～小俣～伊勢外宮（4里18町）
- ◆閏1月15日 宮川～田丸～栃原～三世～瀧原（8里）
- ◆閏1月16日 瀧原～阿曾～柏野～崎村～間弓～梅ヶ谷～長島～三浦～馬瀬（8里）
- ◆閏1月18日 曾根～二鬼島～新鹿～葉田須～大泊～木本～有馬～阿多和～新宮（12里8町）
- ◆閏1月19日 新宮～三輪崎～宇久井～那智山～請川～熊野本宮～湯の峰（10里13町）
- ◆閏1月20日 野中～近露～高原～田辺～三辺～切辺～稲並（10里5町）
- ◆閏1月21日 稲並～原谷～井関～湯浅（8里）
- ◆閏1月22日 宮原～鴨谷～藤代～紀三井寺～和歌山～馬次（7里）
- ◆閏1月25日 馬次～岩手～粉川寺～芝坊（9里32町）
- ◆2月2日 当麻～新庄～御所～上市～多武峯（8里18町）
- ◆2月3日 岡寺～桜井～長谷～三輪明神～柳本～丹波市（7里16町）

- ◆2月4日 法隆寺～小泉～郡山～奈良（3里18町）
- ◆2月5日 三室戸～万福寺（18町）
- ◆2月6日 武佐～八幡～長名寺～大津（3里）
- ◆2月11日 亀山～穴生～善峰寺（7里18町）
- ◆2月12日 西の宮～茨住吉～魔耶山～須磨寺（6里27町）
- ◆2月13日 明石～高砂（5里）
- ◆2月18日 赤穂～正条（4里）
- ◆2月19日 相生山～書写山（1里18町）
- ◆2月20日 笠原～清水寺～市原～古市～追分（13里12町）
- ◆2月22日 外宮～内宮～仏正～宮津～成相寺～宮津（7里）
- ◆2月23日 宮津～軍田～由来～中山～田辺～市場～松尾（11里18町）
- ◆2月24日 松尾～鷹原～本郷～小浜～神明山～遠敷（8里）
- ◆2月25日 遠敷～熊川～山中（4里18町）
- ◆2月26日 長浜～米原～鮫ヶ谷～柏原～今須～関ヶ原～垂水（8里12町）
- ◆2月27日 垂水～赤坂～谷汲山～阿み太子（9里18町）
- ◆2月28日 阿み太子～岐阜～加納～鶴沼～太田～伏見（12里25町）
- ◆2月29日 三獄～大工手～細工手～大井～中津川～落合～馬籠（12里17町）
- ◆3月1日 馬籠～妻籠～三留野～野尻～須原～上松～福島（14里21町）
- ◆3月2日 福島～宮越～藪原～奈良井～贄川（7里5町）
- ◆3月3日 贄川～本山～洗馬～郷原～松本～岡田～刈谷原～会田（9里30町）
- ◆3月4日 会田～龍田峠～口番場峠（5里）
- ◆3月5日 善光寺～まめ嶋～保品斜～大明神～中ノ茶屋～四分津村（9里18町）
- ◆3月6日 四分津村～田代～大笹（3里18町）
- ◆3月9日 草津～長の原～大戸～榛名山～不動橋掛石岩・一の鳥居～室田（13里28町）
- ◆3月12日 行田～騎西～久喜（6里）

### <歩いた総距離は？>

1月25日から1月29日までに24里12町、閏1月1日から閏1月25日までに147里3町、2月2日から2月29日までに135里1町、3月1日から3月12日までに69里12町を歩いています。

総距離数は375里20町。現代のキロ数に直すと1,476km。非常に長い旅路でした。（船や距離の記載がないところは加算していません。）

### <1日あたり平均の歩いた距離は？>

総距離数を記載のある日数で割ると約7里24町。現代のキロ数に直すと約30km。私たちが現在、毎日30km歩くことはなかなかできませんよね。

## 展示解説シート3

平成11年度 特別展「江戸時代の旅と絵馬」

# 旅にかかった費用は？

### <江戸時代の貨幣>

豊臣秀吉により全国が統一され、戦国時代以来の領国ごとの貨幣経済が江戸時代初めに統一されましたが、江戸を中心とする関東では金が、大坂を中心とする関西では銀が中心となり本位制がとられていました。また、一般の流通通貨としては銅銭が用いられていました。

#### ◆「金」は四進法で

1両=4分 1分=4朱

#### ◆「銀」は秤で計り、重さで

1貫=1000匁 1匁=10分 1分=10厘 1厘=1毛

#### ◆「銅銭」は

1貫=1000文

それぞれが別の貨幣単位として使用される状態でした。

### <清次郎さん旅の時代の相場>

清次郎さんが西国に旅に行ったのは天保12(1841)年のこと。この年の金銀銭の相場は？

#### ◆江戸では

「金」1両につき → 「銀」62~63匁

「金」1両につき → 「銭」6~7貫文(6000~7000文)

#### ◆京都や大坂では

「金」1両につき → 「銀」61~63匁

「金」1両につき → 「銭」9貫文(9000文)

### <清次郎さん旅での出費>

清次郎さんの旅日記ではすべての出費の記載があるわけではありませんが、一部に金額が書かれている箇所があります。

#### ◆宿賃

滝原(150文)、船津(124文)、大坂長堀町(124文)、当麻寺(172文)、岡寺(164文)  
丹波市(150文)、奈良(220文)、宇治黄檗山(148文)、武佐(164文)、大津(200文)  
京都三条通六角堂(200文)、亀山(164文) 惣持寺(164文)、西宮(150文)、  
明石(160文)、笠原(150文)、追分(150文)、外宮(140文)、宮津(180文)  
松尾(105文)、遠敷(150文)、長浜(172文)、垂水(150文)、岐阜(150文)、

三嶽 (150 文)、馬籠 (132 文)、福島 (150 文)、贅川 (160 文)、会田 (148 文)、  
四分津 (164 文)、大戸 (164 文)、行田 (200 文)

◆川渡賃・船賃

馬入川 (15 文)、富士川 (16 文)、安部川 (24 文)、大井川 (64 文)、中豊川 (5 文)  
雲出川 (14 文)、稲木川 (14 文)、鳴川 (36 文)、日高川 (32 文)、和歌の浦 (16 文)  
有田川 (20 文)、琵琶湖 (158 文)、正条川 (16 文)、阿曾川 (32 文)、音無川 (4 文)  
琵琶湖 (120 文)、

◆観光

天王寺五重塔登代 (16 文)、曼荼羅開帳 (120 文)、酒吞童子金屏風拝見 (6 文)  
善光寺仁王門 (150 文)、善光寺戒壇回り (6 文)、

◆その他

山役銭 (124 文)、馬札 (3 文)、並湯 (6 文)、小栗湯 (24 文)、蒲団代 (1 文)、  
京都から米原までの荷物代 (10 文)

\*宿代 150 文を現代の金額 4,500 円とすると 1 文あたり 30 円位となりますので、当麻寺の  
曼荼羅開帳は 3,600 円位と考えられます。非常に高く感じますが、現代でいえば映画やコ  
ンサート、美術館の特別展と同じ程度であるといえましょう。また、川渡賃も 20 文とする  
と 600 円、湯の峰の並湯は 180 円、小栗の湯 (薬師から涌き出た湯) は 720 円となります。  
現代の金額と江戸時代の金額を比べるのもおもしろいですね。

## 展示解説シート4

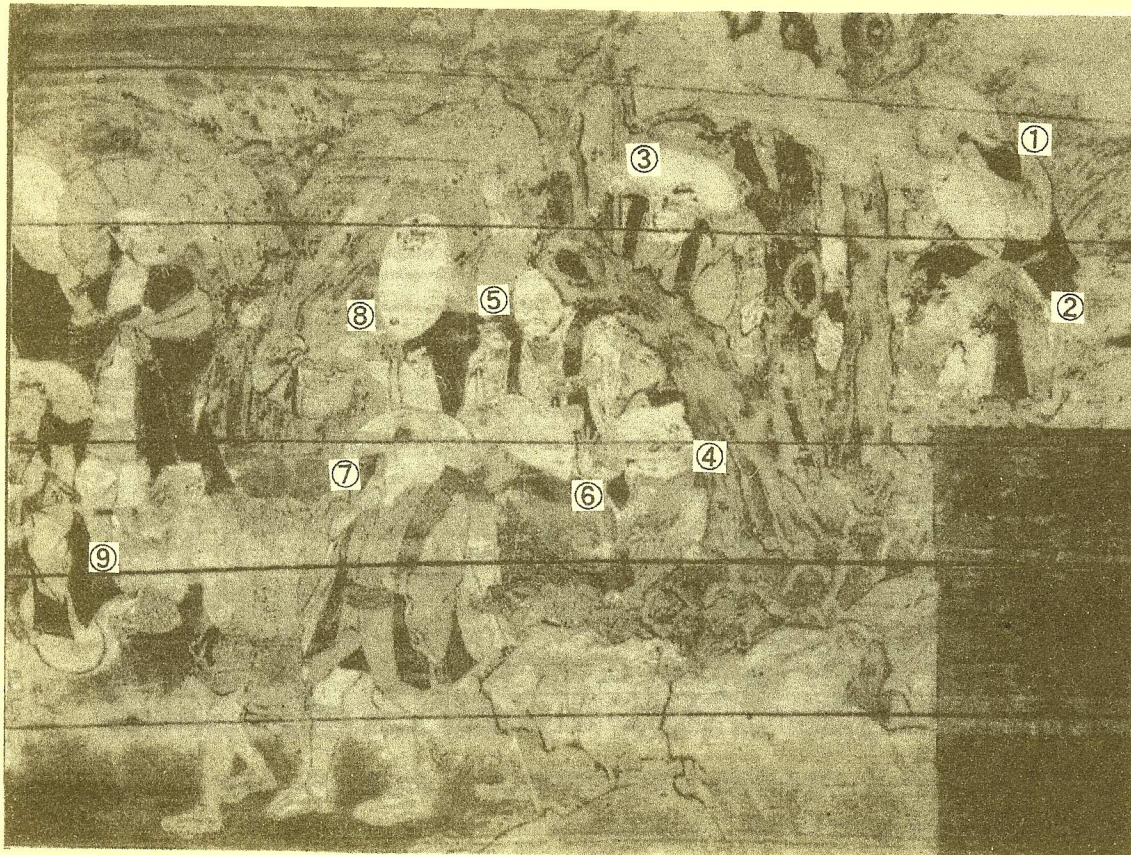
平成11年度 特別展「江戸時代の旅と絵馬」

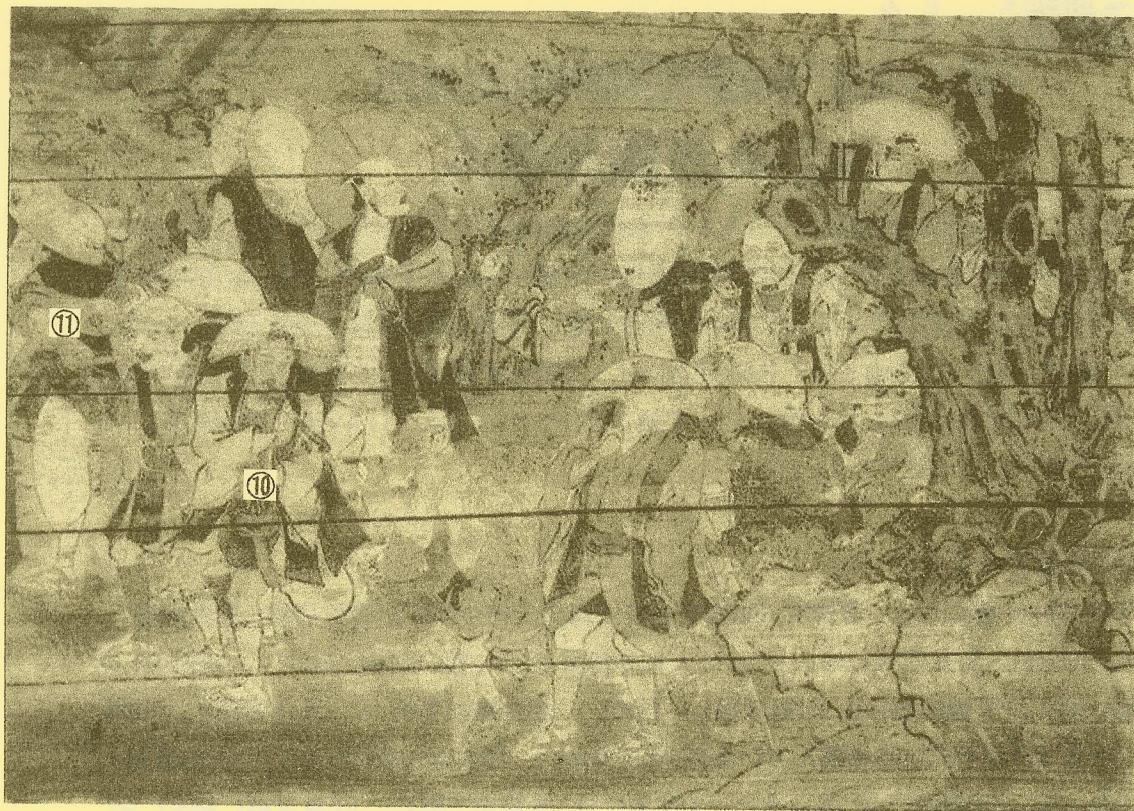
### 描かれた旅の道具

姫宮神社に奉納された絵馬の中には江戸時代の旅の様子を知ることができるものがあります。これは無事に旅から帰ったことを神に報告し感謝するために奉納された絵馬に旅姿や風景が描かれているためです。中でも熊野詣と富士講の絵馬は人々の表情にいたるまで細かい描写がなされ、あたかも1枚の写真のように旅を垣間見ることができます。展示や図録において熊野詣に描かれた旅について触れましたので、ここではもうひとつの絵馬、富士講をクローズアップしてみましょう。

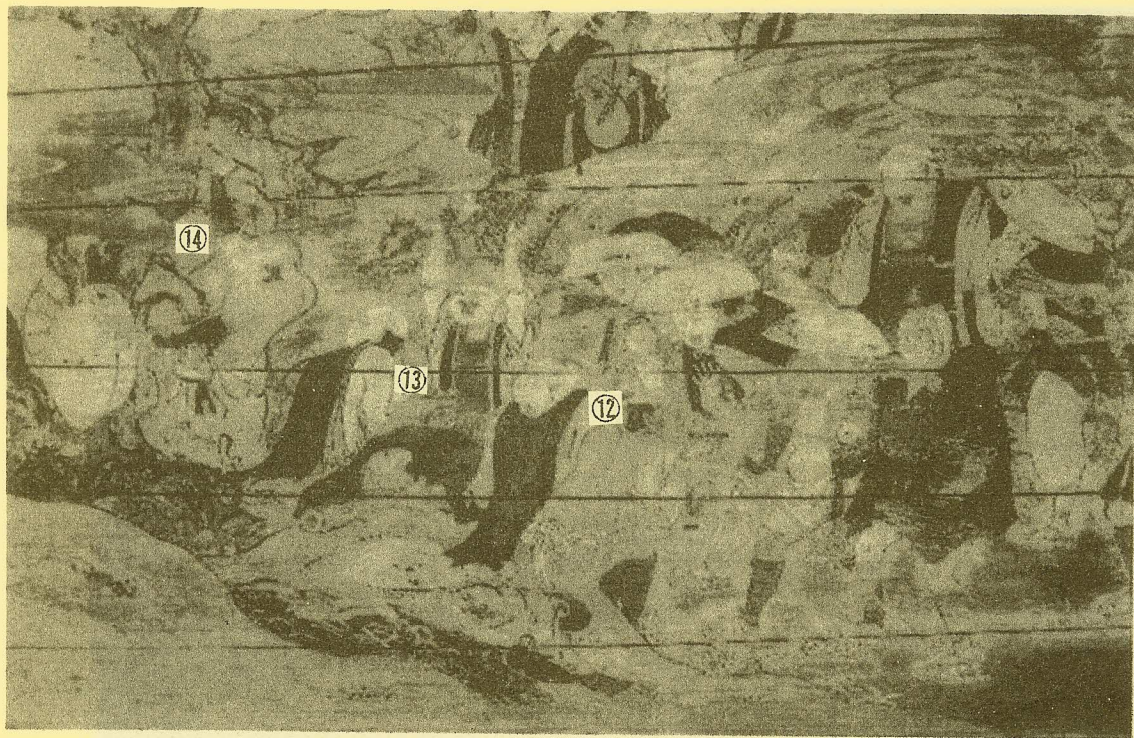
#### <絵馬を見てみると…>

- ① 荷物は風呂敷に入れて背肯う。(自分のものは自分で持った江戸時代の旅。道具は軽くなるよう工夫し・風呂敷や行李(こうり)に入れて背負ったり、担いだりしました。)
- ② わらじを棒に結、担ぐ。(予備のわらじ。山道は険しいため。)
- ③ 金剛杖を持つ。
- ④ 本を読む。(道中案内。今で言うガイドブックを読んでいるのでしょうか。)
- ⑤ キセルをくわえる。
- ⑥ 風呂敷に「山に百」の印。(百間村の百でしょう。)
- ⑦ 荷物にひもを結んで担ぐ。
- ⑧ 風呂敷に棒をにさして持つ。
- ⑨ わらじ売り。(これは地元の商人でしょう。)





⑩煙草入れを腰に下げる。⑪風呂敷を二つ重ねて結び、担ぐ。



⑫ふんどしと手甲姿で、キセル。(後ろに脱いだ着物があります。) ⑬うたたねと大あくび。(ちょっとお疲れ?) ⑭左手に矢立、右手に筆。(筆記用具です。)